



打設したコンクリートの微調整をするのが「はつり工」の役目。「ふつう、私たちの仕事って上から何か塗ったり貼ったりしてほとんど残らないですよ。だから残る仕上げの時はうれしいですね」

[新連載]

輝け! けんせつ小町



はつり工・防水工

鳩貝悦子 / 熊谷理恵

女性の社会進出が推奨される中、日建連では建設業で活躍する女性技術者・技能者の愛称を「けんせつ小町」と定め、ロゴマークも制定して業界内外にPRしている。とはいえ、建設業界にどんな仕事があり、女性が〴〵輝ける、場がどれほどあるのか、広く認知されているとは言い難いのが現状だ。この連載では、さまざまな現場・職場の「けんせつ小町」を取り上げることで、その仕事内容や活躍ぶりを紹介していく。

常に心がけているのは、
まず自分から動く、
ということ

Profile

はとがい・えつこ ●1973(昭和48)年、埼玉県生まれ。高校卒業後、コンクリートはつり工の会社に就職。主にコンクリート造の建設現場で、杭や躯体の整形のためのはつり作業を担当。現在の現場では、職長を務めつつ「なでしこ工事チーム」にも所属。



Profile

くまがい・りえ ●1975(昭和50)年、千葉県生まれ。高校卒業後、防水工事の会社に就職。建築・土木などの現場で防水工・シーリング工を担当。現在は職長として他職との調整を手がける一方、「なでしこ工事チーム」の一員として女性技能者の労働環境改善にも取り組む。



現場で輝く、二人の女性職長

はつり工の鳩貝悦子、防水工の熊谷理恵は、同じ建設現場で働く女性技能者。年齢も近く、女性が少ない職場で互いに情報交換などを続けてきた。現在は二人とも職長として、職人のまとめ役や他職との調整もこなしている。「はつり」とは「研り」とも書き、躯体工事の一環として打設済みのコンクリートを削る、削孔するなどして設計図どおりに形を整える仕事。一方「防水工」は、「シーリング工」などとも呼

ばれ、コンクリートなどの建材と建材の間に生じる隙間にパテやゴムのような材料を詰めて、水が建物内に入り込まないようにする。いわゆる「仕上げ職」に分類される工程だ。

——この仕事に就いたきっかけは？

鳩貝 「若いころからパンクバンドをやっていて、髪型がモヒカンみたいな感じだったので(笑)」、それでも受け入れてくれる仕事ってことで」

熊谷 「私は高校を卒業する時に、職業斡旋で紹介されて。受けたらたまたまそこに受かったので、そのまま入ったという感じです」

はつり工の役目は、単にコンクリートの手直しだけに留まらない。打設した杭の杭頭処理や、型枠から漏出したモルタルの除去、間仕切り壁設置のためのスラブへの欠き込みなど、必要と



右/廣瀬職員曰く、「鳩貝さんは言うべきことはビシッと言ってくれるリーダータイプ。熊谷さんはいつも笑顔で場を和ませてくれる方です」
 左上/はつり作業に使う、電動ハンマー。「先にノミみたいなものがついていて、これで表面を削るんです」
 左下/防水工に使うコーキングガン。「ガンで隙間に流し込んで、ヘラで押し込んで、表面を均します」

わたしが伝える
Sender

女性がより働きやすい現場をめざして

——今でこそ女性が増えてきましたが、お二人が入ったころ、周りは男性しかいないような時代。抵抗はなかったですか？

熊谷 「私の場合、二年先輩の女性がいて、その人がすごく親切に教えてくれたので、そういう点では気にならなかったですね」

鳩貝 「私は男の子に交じってバンドやってたくらいなので…。初めて行った現場で『女だから半人工だな』とか言われて悔しい思いをしたこともありますが、だったら仕事ぶりで黙らせてやろうっていう感じでやってきました。あ、今はそんなこと言われなくていいですよ(笑)」

女性技術者・技能者が活躍する日建連会員企業の現場を登録し、日建連HPで発信している「なでしこ工事チーム」。登録すると、チームとしての活動が紹介される。この作業所でもチームが結成され、竹中工務店・廣瀬茉莉子職員が中心となって活動している。

廣瀬 「お二人とも職歴も長くてベテランなので、仕事の上ではすごく安心してお願いしていますし、職人さんどうしの横の連携もうまく取れています。なでしこチームとしては、女性目線で作業所内を巡回して施設や環境をチェックしたり要望をヒアリングしたり。作業所のイメージをより女性に開かれたものにしようとしています」

女性にこそ向いている
 仕事もある、
 ということをアピール
 していきたい



「完成が近づくとも残業もあって私の帰りが遅くなるんですが、主人も同じ建設業なので、その辺は理解してもらえるので助かります」

される場面は想像以上に多い。

一方の防水工も重責を担う。どんな建物にも、温度変化や地震動などによって生じる変形を吸収するための「目地」がある。気密性・水密性を保つため、壁と壁の間、壁とサッシの間などのあらゆる目地を充填剤で埋める必要がある。

——仕事をすることで気がつくこと、心がけていることはありますか？

鳩貝 「仕事に関しては、『まず自分から動く』ことです。今は職長なんです、どちらかというと人に指示して回って作業に集中する時間がないこともあるんですけど、それでも自分の領域は絶対手を抜かないようにしています」

熊谷 「私は説明するのがすごく苦手なので、何でもできるだけわかりやすく伝えるっていうことは心がけてますね。口で伝わらなければ現地に行って『ここをこうして欲しい』って頼んだり、写真を撮ってそれで説明したり。言葉だけであやふやにしない、ということですね」

——どんなところが魅力だと思いますか？

熊谷 「魅力とは違うかも知れませんが、私は内装が多いので、手戻り(作業をやり直すこと)がないとやはりほっとしますね」

鳩貝 「二口にはつりといっても、普通に削るだけでも仕上げがきれいな人、とにかく早い人と、やり方もいろいろいる。長くやっていると自分から見ても、人それぞれで面白いと思います」

チームで輝く!

上/現在勤務するマンションの建設作業所にて、左から竹中工務店・廣瀬職員、熊谷、鳩貝、松岡久史所長。

左下/「もっと女性に開かれたイメージを出していくにはどうしたらいいか…なかなか私たちだけでは難しい部分もありますが、よく女子会で話し合っています」

右下/防水工は他職との絡みが多く、打ち合わせが欠かせない。「うちが終わらないと次が入れないということがよくあるので、前後の職種の方とはよく日程を調整してますね」



わたしたちが造る
Team

仕上げ職は女性に向いている?

建設現場で、これは女性が得意なんじゃないか、と思うような作業はありますか?

鳩貝 「やっぱり、仕上げ職の方が女性に向いてるんじゃないかと思えますね。躯体はガテン系じゃないですけど、力仕事があるので…」

熊谷 「私も仕上げ職はいいと思います。完成間際になるといろいろな検査があるんですけど、女性の検査官がけっこういるんですよ。で、女性の目線で『ここはそのままじゃ使いづらいんじゃないか』みたいなご指摘をいただくことがあるんで、内装仕上げを女性の感覚でやればそういう部分に気づけるんじゃないかと」

建設業で働く女性を増やしていくにはどうしたらいいと思いますか?

熊谷 「私もそうだったんですけど、まずどんな仕事があるのかも外からじゃわからない。だから『こういう職業がありますよ』っていうのをアピールしていけば、やってみたくて思う人も出てくるんじゃないでしょうか。職人さんも女性にはけっこう優しいですよ(笑)」

鳩貝 「昔に比べたら設備もすごく整ってきてるし、どんな仕事も奥が深くてやりがいがあるので、怖がらずに飛び込んでほしいですね」